

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105081		
法人名	医療法人 尚文会		
事業所名	グループホーム 竹山苑		
所在地	鹿児島市郡山町2570-1		
自己評価作成日	平成24年11月2日	評価結果市町村受理日	平成25年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="#">県ホームページより</a>
----------	---------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成24年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

竹山苑と言う名のごとく、山・田んぼ・川など緑豊かな環境に囲まれ所にある。春は苑で作った弁当を持参してお花見・夏は地域の方々や夏祭りを楽しみ・秋は黄金色に実った稲穂を眺めながら敬老会のご馳走に舌鼓をうつ・冬は自分たちで打ったそばを食べ寒い冬に備えます。小さな苑ですが家庭的な雰囲気の中で温かい苑を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郡山地区の山間部にあり、田園風景の広がる静かな場所に6年目を迎えるホームはある。2ユニットからなるホームは、食堂を中心に対称的に建てられ、行き来ができる造りになっている。利用者がソファに座って、テレビを見たり、職員と楽しく歌う姿も見られる。アットホームな感じであることや職員が明るく気配りもあるなど家族から感謝の声が寄せられている。利用者が気軽に話しかけるなど利用者と職員の信頼関係が構築している。理念にある「あなたの笑顔が絶えないよう」に、管理者と職員は、思いやりを持って日々のケアにあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、グループホームのあり方を探り、みんなで作り上げた理念のもと、機会ある毎に職員間で確認し合い実践につなげている。	ホームは、法人の基本理念・グループホーム独自の理念を掲げている。ホームは、グループホーム独自の理念に対して、どのように実践できているか確認していく意向である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入させていただき、地域活動への参加がスムーズになった。地域の行事に参加して交流を図ると共に、日常的な買物、散髪、病院等も地域の施設を利用するように努めている。	ホームは、回覧板で苑だよりの発行や行事案内をし、参加を呼びかけている。ホームは、大正琴のボランティア受け入れや地域防災の勉強会に出席するなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、地域の会合、研修会に参加し、認知症への理解や、ケアの啓発に努めている。又、中学生の体験学習や、実習生・ボランティアの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、行政、民生委員、家族代表の方に連絡をとり、運営推進会議を開催し、活動状況報告や、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努めている。	会議は、2ヶ月毎に開催され、外部評価の報告・防災についての情報交換など議事録されている。ホームは、災害時トリアージ区分について訓練をするなどサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等、地域包括センター職員に出席していただき、アドバイスをいただいているほか、地域への広報にも協力いただいている。	ホームは、市主催の郡山地区文化祭に作品を出展するなど協力関係を築いている。又、年2回介護相談員の受け入れや地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席するなどサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は、カンファレンスや日々の申し送りでも、お互い確認しあっている。特に玄関や居室に鍵をかけたケアに努めている。そのことに伴うリスクについては、家族と相談するようにしている。	ホームは、カンファレンス時や身体拘束廃止委員会などで日常のケアを振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。職員の都合で行動を制限しないなど自由な暮らしを実現している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止に関する研修に参加するほか、勉強会やカンファレンスを実施し、虐待に関心を持ち、日々の介護の中では、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見制度等の研修に参加し、学んだことは、資料をもとに職員への理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について可能な限り説明をしている。又、利用者様の状況により、やむをえず解約に至る場合には誠意をもって説明し、話し合い、御理解、納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、運営推進会議や家族会、アンケート、面会時に出された御意見、御要望をその後の運営に活かすように努めている。	年2回の家族会は、ホーム行事を兼ねて、8割の家族が出席している。ホームは、毎月苑だよりと担当職員が利用者の生活状況を家族に郵送している。ホームは、今後も家族アンケートを実施し、意見を求めやすい工夫をしていく意向である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングの機会を通じて、意見、要望を聞くように努めている。又、個別にも話を聞く機会を持つよう努力している。	管理者は、年2回の個人面談時やその都度、職員の意見を聞ける場を設けている。施設長が代表者へ相談し、運営に関する意見を反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員が、意欲を持って仕事に取り組めるよう職場環境や条件の整備に努めている。又、年2回の人事考課を行い、資格取得の支援等、向上心を持って働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修参加を積極的にすすめている。又、カンファ等を通じて研修報告し、他の職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修、勉強会、親睦会に積極的に参加している。今後は、相互訪問、研修等をすすめて更なるサービス向上を目指したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、御本人の希望や生活歴、生活状況を把握し、不安を取り除くよう努めている。又、家族と相談しつつ、新しい環境に慣れていただくための配慮を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の時に、家族としての希望や、これまでの経緯を聞くようにしている。又、入所されてからも、状況に応じて相談し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、御本人や御家族の思いや状況を把握して、今必要なサービスにつなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全ての職員は、利用者様が、人生の先輩であるという考えを共有していて、教えていただくことも多い。又、日常生活の中で、できることは一緒にいき、お互い学びあえる機会としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、機会あるごとに、利用者様の状況や思いを伝えて、家族と相談しながら御本人を支えていくようお互い協力しあっている。又、担当職員から月1回お便りをさしあげ、絆を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会をはじめとして、自宅、実家への帰省、墓参り等機会を捉えて家族にお願いしている。又、事業所でも本人の希望が叶うように様々な形で応援している。	馴染みの人や場については、日頃のケアで職員が把握している。誕生日会で民謡を披露したり、馴染みの美容院へ行くなど個々に応じて支援している。	馴染みの人や場の関係については、家族への聞き取りや現時点で職員が把握していることを書類にまとめ、さらに個々のケアに反映されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、利用者同士自由に会話できるようにしている。又、苑の行事やレクレーション等でコミュニケーションを図り、お互い理解しあえるよう職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了されてからも、御本人、御家族共に関係を続けられるよう相談や支援に努めている。又、他事業所に移られた場合でも、情報提供すると共に機会を作って訪問するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の話を聞き、思いを把握し、希望が叶うよう支援している。本人にとって、どこで誰と暮らすのが最良なのかを家族を交えて検討している。	職員は、ホールでくつろいでいる時や入浴時などさまざまな場面で本人の意向や思いを把握している。職員は、ケース記録や業務日誌などで情報共有し、ケアにあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、御本人、御家族から聞き取りを行い、これまでの生活状況の把握に努めている。又、入所前の事業所や病院からも情報提供いただき、苑でのサービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、日々の申し送りやカンファレンス等情報交換の中で、現在の生活リズム、心身状態、残存能力を理解しつつ支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が、笑顔で自分らしく暮らせるように、御本人、御家族の要望を聞き、職員間でカンファレンスを行っている。それをもとにサービス計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族に聞き取りをし、作成されている。計画作成担当者は、職員の意見を踏まえて6ヶ月毎にモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の状況変化、職員の気づき、工夫を個人ケース記録に記載している。その情報を共有しながら、実践や介護サービス計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、受診、リハビリ、整髪の送迎を行っている。又、必要に応じて往診、訪問マッサージ、移動美容室等のサービスも受けていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を通じて自治会長、民生委員との意見交換を図り、地域との接点を見出し、周辺施設(消防、警察、市役所、小・中学校、自治会)への働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族が、希望するかかりつけ医になっている。又、かかりつけ医と綿密に相談しながら対応している。家族や職員と通院したり、訪問診療を受けているケースもある。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望を踏まえ、利用者の半数を往診で対応している。家族が通院支援する際には、ホームは、家族に利用者状況を伝えたり、主治医へ直接連絡するなどしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置しており、介護職は、そのつど看護職の情報を得て、日常の健康管理や受診につなげている。受診時かかりつけ医の看護職からも情報を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法を医療機関へ提供し、職員が見舞うようにしている。入院中は、家族や病院関係者と連携をとりながら、早期の退院につなげている。又、退院時には、看護サマリーの提供を受け、その後の支援を続けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの研修を受け、終末期のあり方について勉強しながら苑としての取り組みを検討している。入所時、苑としてできることを説明し、理解を求めている。現在は、本人や家族の意向を踏まえ、苑で対応し得る最大のケアを行っている。	ホームは、重度化や終末期ケアに対する指針を作成し、その状態に近づいている利用者に対しては、家族に説明し、話し合っている。入居継続については、家族や医師の判断を踏まえ、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼して、応急手当、救急避難訓練、消防訓練を行っている。又、緊急時対応マニュアルを作成し、自主勉強会でも取り上げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練、消防訓練を行っている。又、地域の防災会議に参加して、情報を得ると共に運営推進委員を通じて地域への協力をお願いしている。	ホームは、年2回消防署の立ち合いの下、避難訓練を実施している。各居室に、生活用品の入った避難袋を準備し、災害に備えている。又、備蓄品として、米・水・乾パンなどを準備している。	ホームは、あらゆる想定で自主訓練やシミュレーションを行い、利用者を安全に避難できることを期待します。

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけて支援している。又、カンファ等で、高齢者介護の尊厳について話し合っている。	職員は、認知症についての研修を行っている。職員は、着脱時のケアやトイレのドアを閉めるなど利用者に不快感を与えないケアができるように気をつけている。	ホームは、グループホームにおけるプライバシーのマニュアルを作成し、研修することでさらに日々のケアで反映されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常生活の中で、本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、いくつかの選択肢を提案するよう心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、毎日の情報交換の中で、利用者の生活リズム、心身状態、残存能力を理解し、その日をどのように過ごしたいか、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で、その人らしい服装や身だしなみ、おしゃれができるように声かけし支援している。整髪は、本人や家族と相談してきめている。又、季節行事の時等、お化粧していただき喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に季節の物、行事食、利用者の好みの物を取り入れ、一緒に出来る下ごしらえや調理はレクレーションとして参加してもらっている。メニューを掲示し、嚥下体操や準備、片付け等できる場所は利用者にも参加していただいている。	ホームは、利用者の介護に重点を置き、夕食の主食については、冷凍食品を取り入れている。又、敬老会では、バイキング形式にしたり、ソーメン流しに行くなど食事を楽しむ工夫をしている。利用者の力量に応じて、下膳や下ごしらえするなど共にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者に合う栄養バランスのとれた食事をさしあげ、一人一人の体調と、食事や水分の摂取量を毎日把握している。好みのおやつや飲み物を用意したり、飲み込みが悪い方には、おかゆや刻み食、トロミ食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、その人に応じたケアの支援をしている。又、毎晩義歯の消毒と、週1回、コップ・歯ブラシの消毒を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄のチェックをして、排泄の時間や習慣を把握し、トイレでの排泄を目指し支援している。紙パンツから布パンツへの切り替えも、本人の状態に合わせて検討し支援している。	排泄チェック表を作成・把握し、一人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレ誘導している。職員は、カンファレンス時に尿パットの使用方法について検討するなど排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに、食物繊維の食材や、ヨーグルトを取り入れたり、朝食前の水分補給やオリゴ糖を使用して自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の状態や希望に添って入浴していたが、時間帯は決めてある。入浴されない方は、清拭や足浴で対応している。その他、尿・便失禁時は、随時シャワー浴を実施している。	入浴は、日曜日以外の午後を予定しているが、利用者の希望や体調に添って、週2回の支援をしている。ホームは、同性支援や浴室にエアコンを設置するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。又、体調や表情を観察し、ゆっくり休んでいただけるよう支援している。御本人の希望により、安眠のための薬を差し上げている方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋を整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。また、処方の変更があった時は、ボードに掲示し、申し送りし、様子観察し記録している。職員は、利用者の症状を確認し合いながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合った仕事や手伝いをお願いしつつ、役割や楽しみを探し努力をしている。又、季節行事や誕生会、レクリエーション、散歩、ドライブ等で気晴らしが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分や体調に応じて、散歩、ドライブ、買物に出かけている。又、地域行事への参加や、家族との交流(帰省・墓参り等)を積極的に勧めている。	天気の良い日は、玄関でお茶を飲んだり、ホーム周辺を散歩するなど外気に触れる支援をしている。又、車椅子の利用者も変わりない支援をしている。個別支援については、さらに充実させていきたい意向である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、御家族と相談しながら、利用者の希望に合わせてお金を所持したり、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも家族や大切な方に電話して声を聞き安心していただいている。又、手紙やはがきのやり取りの支援や、月1回担当者から家族へのお便りでは本人の思いを代弁するような形でお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、皆さんが落ち着いて過ごせるように常に気配りしている。又、玄関やフロアには季節の花を飾り、壁面も季節を感じられるように工夫している。なお、皆さんが集うフロアの室温管理には充分配慮している。	ホームは、多くの加湿器を設置し、利用者の体調管理に生かしている。又、利用者の相性を考慮し、配置を工夫するなど居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで過ごすフロアではあるが、テーブル、ソファとそれぞれの気分で過ごしていただけるよう工夫している。又、中庭や玄関ポーチにもくつろいでいただけるようベンチを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごしていただけるように、家族の写真、家具、なじみの物を持ってきていただいている。又、各担当者は、居心地良く過ごしていただけるよう、整理整頓に努めている。	居室には、ベッド・タンス・エアコンを備え付けられ、利用者の状態に応じて、ベッドやソファの配置を変えるなど過ごしやすい工夫をしている。入り口には、担当職員の名札を下げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた環境作りに努めているが、居室をはじめ、共有空間等居住環境が適しているか、常に観察し、見直し工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスについて職員全員で考える機会をもち、具体的なケアについて話し合い実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会へ加入し、地域活動への参加がスムーズになった。中学校、小学校の行事に参加し交流を図っている、日常的な買物、散髪、病院等も地域の施設を利用するように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、地域の会合、研修に参加し、認知症への理解やケアの啓発に努めている。又、中学生の体験学習や、実習生・ボランティアの受け入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、行政、民生委員、家族代表の方に連絡を取り、運営推進会議を開催し、苑の活動状況報告や、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等、地域包括センター職員に出席していただき、アドバイスをいただいているほか、地域への広報にも協力いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや日々の申し送りで、お互い確認しあっている。特に玄関や居室に鍵をかけたケアに努めている。常に利用者の安全を考え、その事に伴うリスクについては家族と相談するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止に関する勉強会やカンファレンスを実施し、虐待に関心を持ち、日々の介護の中では虐待防止に努めている。		

自己評価	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、「日常生活自立支援事業」等の研修に参加し、学んだ事は資料をもとに職員への理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について可能な限り説明をしている。又、利用者様の状況によりやむをえず解約に至る場合には、誠意をもって説明し話し合い納得いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が、運営推進委員会や家族会、アンケート、面会時に出された御意見、御要望をその後の運営に活かすように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティングの機会を通じて、意見、要望を聞くように努めている。又、個別にも話を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員が意欲を持って仕事に取り組めるよう職場環境や条件の整備に努めている。又、年2回の人事考課を行い、資格取得の支援等、向上心を持って働けるよう工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員のケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修参加を積極的にすすめている。又、カンファ等を通じて他職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修、勉強会、親睦会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、御本人の希望や生活歴、生活状況を把握し、不安を取除くように努めている。又、家族と相談しつつ、新しい環境に慣れていただく為の配慮を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の時に、家族としての希望や、これまでの経緯を充分聞くようにしている。又、入所されてからも、状況に応じて相談し信頼関係を築くようつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、御本人や、御家族の思い、状況を把握して、今必要なサービスにつなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全ての職員は、利用者様が人生の先輩であるという考えを共有し、教えていただくことが多い。又、日常生活の中で、できることは一緒に行い、お互い学びあえる機会としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、機会ある毎に、利用者の状況や思いを伝えている、又、担当職員から月1回家族へお便りをさしあげ、絆を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会をはじめとして、自宅、実家への帰省、墓参り等機会を捉えて家族にお願いしている。又、事業所でも本人の願いが叶うように努力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、利用者同士自由に会話できるようにしている。又、行事やレクレーション等でお互い理解しあえるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた場合でも、情報提供すると共に機会を作って訪問するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の話を聞き、思いを把握し、希望が叶うよう努力している。本人にとって、どこで誰とどの様に暮らすのが最良なのかを家族を交えて話している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、御本人、御家族から聞き取りを行い、これまでの生活状況の把握に努めている。又、入所前の事業所、病院からも情報をいただいて、苑でのサービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、日々の申し送り等情報交換の中で、活動状況、心身の状態、残存能力を理解し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、笑顔で自分らしく暮らせるように、御本人、御家族の要望を聞き、職員間でカンファレンスを行なっている。それをもとに、サービス計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の状況変化や、職員の気づき、工夫を毎日個人ケース記録に記載している。その情報を共有しながら実践やサービス計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて、受診、リハビリ、整髪の送迎を行っている。又、必要に応じて、訪問マッサージ、往診、移動美容室等のサービスも受けていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を通じて自治会長、民生委員との意見交換を図り、地域との接点を見出し、周辺施設(消防、警察、市役所、小・中学校、自治会)への働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族が希望するかかりつけ医になっている。又、かかりつけ医に連絡をとり、相談しながら対応している。訪問診療を受けているケースもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携をとり、情報提供を行ったり相談、助言、対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを医療機関へ提供し、職員が見舞うようにしている。入院中は、家族や病院関係者と連帯をとりながら、早期の退院につなげている。又、退院時には、看護サマリーの提供を受け、その後の支援を続けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの研修を受け、終末期のあり方について勉強しながら苑としての取り組みを検討している。入所時、苑でできる事を説明し、理解を求めている。現在は、そのつど家族や医師と連携しながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼して、応急手当、救急避難訓練、消防訓練を行っている。又、緊急時対応についてマニュアルを作成し、勉強会でも取り上げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力的体制を築いている	年2回利用者と共に避難訓練、消防訓練を行っている。又、地域の防災会議に参加して情報を得ると共に、運営推進委員を通じて地域への協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけて支援している。又、カンファ等で、高齢者介護の尊厳についてお互い話しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人のペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の着替えは基本的に本人と一緒に選ぶようにしている。一日の過ごし方はご自分の意思で過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で、その人らしい服装や身だしなみ、おしゃれが出来るよう声かけし支援している。整髪は、本人や家族と相談して決めている。又、誕生会や行事の時は、お化粧していただき喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の好みのものを取り入れると共に、メニューを掲示し、一緒に出来る下ごしらえ、調理、嚥下体操、挨拶等は積極的に参加していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と、食事や水分の摂取量を毎日把握している。好みのおやつや飲み物を用意したり、飲み込みが悪い方には、おかゆやきざみ食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、その人に応じたケアの支援をしている。又、週1回コップ、歯ブラシ、義歯等の消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄のチェックを行い、排泄の時間や習慣を把握し、声掛けしてトイレでの排泄を目指し支援している。紙パンツから布パンツへの切り替えも、本人の状態に合わせて検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに、植物繊維の食材やヨーグルトを取り入れたり、朝食前の水分補給(牛乳)、オリゴ糖使用して自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めているが、ご本人の意志を尊重しながら、またゆっくりと職員と会話を楽しみながら入っていただいている。入浴されない方は足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。お昼の休息も自由に取っていただいている。眠剤を飲んで居られる方は睡眠状態を把握しドクターと相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの情報を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。又、処方の変更があった時は、ボードに掲示し、申し送り伝え、様子観察し記録している。職員は、利用者の症状をお互い確認し合いながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合った仕事をお願いしたり、役割、楽しみを探す努力をしている。又、レクリエーション、ドライブ、散歩、買物等気持ちよく出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分や状態に応じて、散歩、ドライブ、買物に出かけている。又、地域への行事への参加や家族との交流(帰省、墓参り等)を積極的に勧めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、御家族と相談し本人に必要であればお渡しする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、不穏時等、いつでも家族や大切な方に、電話して声を聞き安心していただいている。又、手紙やはがきのやり取りの支援や、月1回、担当者から家族へのお便りの中では、本人の思いを代弁するような形でお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、落ち着いて過せるように、家具の配置等常に気配りしている。又、玄関やフロアには、季節の花を飾り、壁面も工夫している。特に、皆さんが集うフロアの室温管理にわ充分配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで過ごすフロアではあるが、テーブル、ソファとそれぞれの気分で生活していただけよう工夫している。又、中庭やポーチでもくつろいで頂けるようベンチをおいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂けるように、家族の写真、家具、なじみの物を持ってきて頂いている。又、各担当者は居心地良く過ごして頂けるように、整理整頓に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた環境作りに努めているが、居室をはじめ、共有空間等居住環境が適しているか、常に観察し、見直し工夫している。		